

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	福井支部	(2)記載者氏名:	大和 康郎	会員番号:	13872	事務局整理記入欄	福井 - 15
分水嶺区分	W122椿坂峠~W119池内山~鉄塔北の鞍部	(3)山行日:	2004年	11月	14日	(4)天候:	曇り

(5)参加者氏名および会員番号

宮本 数男	10622	山本 以久子	12260	牧田 正弘	13784	中山 勇	一般参加	
大和 康郎	13872	福田 澄子	12429	岸本 トシエ	13871	白石 初男	一般参加	
松村 進	11053	江田 晃	12683	川口 宋	13904			
船田 洋子	11095	田路 繁男	13086	穂高 欣司	一般参加			
							計	14名

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	椿坂峠~すり鉢山~長野峠~池内山~鉄塔北で分水嶺離脱												
アプローチ:	敦賀より車にて(R8~県道140~R365)椿坂峠に移動し登山開始 鉄塔北より巡視路/林道を経て中河内移動 残置していた車で帰る。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	所要 時間	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	椿坂峠												
分水嶺到達点W122	椿坂峠		136	9	44.8	35	38	22.9	506				1
	サギチョウ西		136	9	25.5	35	38	28.2	612	0:27		林道	1, 2
	565地点		136	9	17.4	35	38	35.1	567	0:15		B-1	3, 7, 8
	鞍部		136	9	8.0	35	38	48.6	553	0:33		B-1,B-2	7, 8
W120	搦鉢山		136	9	9.1	35	39	2.8	632	0:30		B-1,B-2	7, 8
	619地点		136	9	5.4	35	39	20.3	621	0:40		B-2	9, 10
	長野峠		136	8	56.4	35	39	38.9	585	0:35		B-2	4, 9, 10, 11
	601地点		136	8	53.0	35	39	45.5	604	0:20		B-2	11
	655地点		136	8	21.6	35	39	53.3	656	0:35		B-2	
W119	池内山		136	8	12.4	35	39	55.9	651	0:10		B-2	
	鉄塔(大黒部396)		136	8	8.7	35	39	59.0	634	0:03		B-1,B-2	5, 12
分水嶺離別点	鉄塔北の鞍部		136	8	5.9	35	40	2.2	606	0:03		A-2	6, 13
歩行終了点	中河内林道入り口		136	9	22.6	35	40	6.2	434	0:57		A-2,林道	6
												総歩行時間(休憩時間を除く):	5時間08分

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特 記
W120	津谷	4	真南	良	航空写真用残材在り
W119	網谷	3	東75°		東南角モルタル補修 他4ヶ所欠け、保護石無し、東面に三等との記載

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

- 椿坂峠より別荘地内の林道を通ってサギチョウ西の分水嶺に行ったが、林道横に廃屋状態の別荘小屋が数軒見られる。又林道にはそれぞれ別荘の区画・面積表示等の標識が掲示されていた。(何処を指しているのか意味不明であった)
- サギチョウ西の分水嶺点に行く為、1軒の別荘地を通過する必要が有り、林道から私設の階段を登り別荘地に入る。3棟の建物と建物の基礎が有った。敷地周りが人の背丈程度のかすみ網で囲われていた。(山行報告書 福井 - 14)でも同様な報告を行った)
- 福井県側の伐採跡に草刈機の刃及び食べかすのゴミが見受けられた。
- 長野峠に電電公社時代の中継ボックス「コンクリート製で人が立って2人程度入れる程の大きさ」にケーブルが入った物があり。又曲天と彫られた石柱1基有り。
- 送電線の鉄塔大黒幹線396が分水嶺上にあり。(周辺空地に補修用の縄・ブルーシートが放置されている)
- 大黒幹線396鉄塔から分水嶺上を送電線巡視路が通っている。鞍部から巡視路が分水嶺を外れ林道の所まで繋がっている。

(9)水および植生に関連した特記事項

- ほぼ搦鉢山近くまで福井県側・滋賀県側双方共に杉の植林がなされている。その境界を識別する為、尾根を挟んで双方一定の距離が自然林で残されている。
- W120の搦鉢山まで全部ではないが、所々尾根より福井県側の自然林が伐採され、歩き易くなっている。(杉の手入れの為か)
- かなり太いブナ・なら類の自然林が多く、これらが池河内湿原に水を常に供給する為の貯水機構になっているのだと納得する。(池河内湿原は敦賀市を貫通し、日本海に注ぐ「笹の川」の源流である。)

(10)その他の特記事項

- 福井県側の斜面で時節が良く、カエデ等の紅葉の最盛期を沢山見ることが出来、目の保養になった。
- 時節が良い為か、ナメ草・栗茸が沢山生えており、皆さん採取に大忙しであった。
- 関電送電線鉄塔 大黒部幹線396より敦賀市が一望、嶺南の山並みが確認出来、遠く青葉山の双瘤ラクダも目に入る。
- 分水嶺を離脱する所に、赤布のペナントを木に結わえ、次回「枡の木峠」より縦走して来る時の印とした。

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: